

地域の自然を知るきっかけに

榊枝さんが勤める四日市市内の水処理会社では、泥処理などの専門的な技術を活かし、環境再生事業のひとつとして、池干しに取り組んでいます。

東海タナゴ研究会での活動がきっかけで、池干しの重要性を知り、地域の環境学習の機会としても提案していきたいと思うようになりました。四日市市内を中心に、工場や農業用のため池での池干し活動を広げています。

榊枝さん「池干しは普段入れない池の中の生き物と触れ合うことができるので、地域の自然環境についてもっとよく知ることが出来ます。」

たも網を持った子どもたちは、必死に魚を追いかけたり、泥の中にいる生き物をさがしたりします。夢中になりすぎて気がつけば全身、泥だらけです。さまざまな生き物と触れ合うことは、子どもたちにとつて貴重な体験となります。

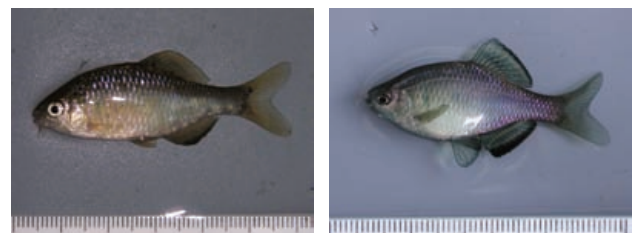
北島さんは池干しを通して、子どもたちに「もともとこの場所にいた生き物がこれからもいるようにしていこう」と伝えます。タナゴは昔から日本の里川にいた魚。本来の「タナゴの棲むふるさと」を絶やさずに、この先も残していきたいという想いがあります。



地域の生物多様性の象徴「タナゴ」

タナゴとその生息地の保全は、単にひとつの種の生き物を守るといふことだけではなく、タナゴが棲む生態系バランスを保つことが重要です。その地域固有のさまざまな生き物であふれた環境のなかにタナゴがいます。

この環境を維持するための取り組みが「池干し」です。池干しは大人から子どもまで、世代を超えて地域で取組むことに意義があります。こうして世代間の交流を活



右は菟野町楠根ためのアブラボテ、左は滋賀県のアブラボテ（どちらも婚姻色をしたオス）。同じ種でも色や形が違います。地域固有の生き物を大切にしていかなければなりません。

発化させ、自然との触れあい方や遊び方、自然からの恩恵を親から子へ、そして孫へと伝承していくことができます。

タナゴとその生息地の保全には、地域の自然と地域の人々の関係を、もう一度結びなおすという大きな主題が隠されています。いつまでも地域の自然が豊かに、そして地域の人々の中でため池の生き物を大切にすることが、このようにして育まれていくのかもしれない。

そういった意味でタナゴは、失われつつある「地域と自然、人と人の関係」を再び結び、地域の生物多様性を保全する仕組みをつくる象徴的な存在なのです。

写真提供 東海タナゴ研究会

川、池、里山などで活動する方！生物多様性の保全に関心のある方！

締切 7月31日 木

参加費 無料

三重県環境学習情報センター主催 スキルアップ講座

ため池に魚をもどすには ～地域の生物多様性の復元～

- 「タナゴ」(淡水魚)を中心とした里川の生き物
- 里川の生物多様性保全の取組み「池干し」の目的と方法、その効果

平成26年

日時 8月23日 土 13:30～15:30

会場 サン・ワーク津 研修室(津市島崎町143-6)

講師 東海タナゴ研究会 代表 北島 淳也 氏

東海タナゴ研究会がこれまでに実施した「池干し」の事例紹介とともに、里川の復元方法などのお話を聞き、地域の生物多様性について考えます。

対象 ◇環境学習指導者養成講座の受講者
◇自然環境の保全や生物多様性の保全に関心のある方

募集人数 50名(18歳以上の方)

※申込多数の場合は抽選。その際、三重県在住の方を優先します。

information

東海タナゴ研究会
Central Japan Biting Research Association
<http://toukaitanago.web.fc2.com>

東海タナゴ研究会のメンバーが設立した同会社
サトガワキカク
SATOGAWA ENTERPRISE LLC.
<http://www.satogawakikaku.com>

生物多様性保全農園 **タナゴの里**
(岐阜県海津市南濃町庭田)

畑の仕事を体験したり、里川の料理を作ったり、ため池や小川の生き物観察をしたりなど、地域の自然と触れ合うイベントを開催！